

## 2030年、RIGHTS MANAGEMENT BUSINESS、将来 AIによる「Xジェネレーション」、人間の「MIND」価値

先週1月31日、英国がEUを実際離脱しました。北米、ドイツ、フランス他各国で分断、自国優先が進んでいますが、一つの要因として、AIとインターネットによる各属性にセグメントされた情報流通があります。ネットにより、世界中で膨大な量の情報が個から個へ、双方向に流通するようになった現在、情報の選択は基本、AIによる検索が司ります。検索では、自らの属性に合った「予定調和」の情報が押し寄せ、自らの属するコミュニティに於いて思考と志向は先鋭化します。ある人にとって、その属するコミュニティに於いて、自らの志向が唯一の見方となり、他を拒否し他との断絶が進みます。

今後、ネットは1Gから「ムーアの法則」でないですが、5Gに至るまで加速度的に大容量化し、先鋭化された無数の属性、そのコミュニティを育んできました。過去、リアルが担ってきたコンテンツの流通の役割に於いて、これから第6世代~第7世代、「第X世代」と、完全に、自己増殖するビッグデータとAIと結びついたネットが主役になります。

これから訪れるシンギュラリティ後の世界で、ビッグデータを握ったAIは、過去、縦割りにモノづくり、サービス提供を担ってきたプレイヤー達を横断的にマネジメントし、人間の衣食住から移動、全ての活動に於いて瞬時タイムリーに需要と供給を結び付けます。過去、縦割りの競争状態にあった各業界が、AIにより横断的に統合され、世界が合理性に於いてAIによってマネジメントされる世界が出現します。

一方で、逆に、「X世代」の時代、ネットに代替できない「リアルの役割」が、反動としてビジネス含め価値が飛躍的に増大します。

生物の進化は「突然変異」ですが、リアルの世界に於いても、初期AIにはプログラムしきれない膨大な要素が存在し、予定調和ではなく、現在の延長ではない「突然変異」が生じます。

ICAが現在、「リアル」のスペースと「モノ」というコンテンツの流通を押さえる目的は、ここにあります。

リアルの役割に於いて、コンテンツは「突然変異」を起こし、又、「リアル」のスペースはネットに繋がりブッシュ型に情報拡散を促します。

前回、「AI」MUSICの話をしました。AIにできないコンテンツは、人間の「MIND」により「突然変異」を起こしたものととなります。

「AI」と「MIND」、いずれに良し悪しはなく、その組み合わせにより新たなパラダイムが出現するという事です。人間に存在し続ける役割はここです。

現在、ICAは小売ビジネスに於いてリアルスペースに求められる役割の象徴として、「POP UP STORE」と「シネマコンプレックス（シネコン）」での流通を押さえつつあります。

目指すミッションは、「リアル」のスペースの役割を先鋭化し、ネットワーク化をする事です。

AIの時代、RIGHTS MANAGEMENT BUSINESSは将来、ブロックチェーン等活用したDBのビジネスに向かうものの、そのマネタイズのプロセスに於いて、リアルなスペースは重要な役割を果たします。

「リアル」は、体験と体感の中で、思考には偏りではなくバランスをもたらし、ある時、突然変異を起こします。更に、正しいメッセージを再生産すると共に、ネットに繋がるSNSによってブッシュ型で情報拡散を促します。



2020年、「千里の道も一歩から。」という言葉があります。

大変な勢いで環境が変化する中であって、将来を見据えつつ、目の前の現実を一歩ずつ前進させていく必要があります。

今、「リアル」に求められる役割を象徴する2つのスペース、興隆する「POP UP STORE」と「(4DX) シネコン」は、(ネットに代替できない)視覚聴覚以外の五感に訴求し「ワクワクドキドキ」する体験を提供しています。メディアとしては、リアルな場を持つブッシュ型のエネルギーによってSNSでの情報拡散を喚起します。

ICAは、今春、「シネマ・プロジェクト」に於いて、上映作品のヒット有無に関わらず一定のビジネスを創出するシネコン内での恒常的特設コーナーを設置し、そのブランディングを行います。

又、5G時代、映像パッケージが小売実店舗で売れなくなる中、シネコンというリアルなスペースで、アーティスト・コンサートBlu-rayを上映しBlu-rayを拡販します。所謂、5G革命による反動、パッケージビジネスの変質を利用した、シネマ配給事業と映像パッケージの拡販ビジネスです。